

第37回 平成20年

新潟県指定無形民俗文化財

三条かぐら鑑賞会

日時 10月5日(日)午後1時開演
会場 三条市中央公民館大ホール



主催 三 条 市
三条神楽保存会

プログラム

- | | | | |
|---|-----------|--------------|-------|
| 1 | 開会のことば | 三条神楽保存会会長 | 横山 弘 |
| 2 | 主催者あいさつ | 三条市長 | 國定 勇人 |
| 3 | かぐらの演舞 | (解説) 神明宮禰宜 | 三上 正行 |
| | (1) 先稚児の舞 | 塚野目 | 白山神社 |
| | (2) 宮清の舞 | 保内 | 小布勢神社 |
| | (3) 悪魔払の舞 | 三条 | 八幡宮 |
| | (4) 花献の舞 | 一ノ木戸 | 神明宮 |
| | (5) 五行の舞 | 田島 | 諏訪神社 |
| | (6) 羽返の舞 | 塚野目 | 白山神社 |
| | (7) 神勇の舞 | 大崎 | 中山神社 |
| | (8) 稲田宮の舞 | 一ノ木戸 | 神明宮 |
| | (9) 特別出演 | 四日町小学校ふれ太鼓部 | |
| 4 | 閉会のことば | 三条市市民部生涯学習課長 | 金子 正典 |

1 ^{さきちご}先稚児の舞

塚野目 白山神社

神楽の最初に舞う稚児舞です。舞は二人のときと一人で舞うときもありますが、稚児一人で舞われることが多いようです。神々の大前で静かにいのりを捧げるものです。春、夏、秋、冬の今様が楽屋で歌われます。今様とは、平安時代末の歌曲の総称です。

【囃子】先稚児拍子

【装束】天冠・狩衣

【採物】鈴・扇



2 ^{みやきよ まい}宮清の舞

保内 小布勢神社

伶人一人で舞う。天照大神がスサノオノミコトの乱行を怒り、天の岩戸におかくれになられたその時、アメノコヤネノミコトが大神のお出ましを願うための祭りを行うべく、先ず大神なきあとの不浄を清めようと修祓の行事を行ったということに由来する舞で、神楽殿、参拝の人々の罪、穢れを祓い清める意味のものです。

【囃子】三拍子

【装束】毛頭(小)・狩衣

【面】翁

【採物】大麻



3 あくまはらい 悪魔祓の舞

三 条 八 幡 宮

天孫の降臨に先立ち、フツヌシノミコトが中津国の荒ぶる神を、打ちしずめるために努力されたことにちなんだ舞で、神刀の威力で邪気を祓い、世の中の安泰を祈るものです。

フツは、刀剣の鋭く物を立ち切る音の擬声語で、諸々の悪を刀剣で断ち切ることを象徴した舞です。

【囃子】悪魔祓拍子

【装束】金襴法被差袴毛頭
(大)

【採物】剣



4 かけん 花献の舞

一ノ木戸 神明 宮

稚児4人舞です。時の花を神に捧げる意味のものと思われませんが、ににぎのみこと かささ 邇々芸命を笠沙の岬にお迎えして、命の苦勞をおなぐさめ申したことに由来する舞であるとも伝わっています。

【囃子】花献拍子

【装束】立烏帽子又は天冠
狩衣・差貫袴

【採物】時の花の枝 1人2
本ずつ



5 ^{ごぎょう}五行の舞

田 島 諏訪神社

この舞は、他県では「国堅め」といって五色の幣をもって舞っていますが、三条では神代より五つの誓、即ち仁・義・礼・智・信、これを五つの宝珠に現わし、人倫の道を教え、天下太平、世の安泰を祈る舞だといわれています。

【囃子】五行拍子

【装束】伶人一女鬘・狩衣・口細袴

稚児一先細烏帽子・狩衣・差貫袴

【面】 天川面

【採物】伶人一三宝に黄の宝珠をのせ神前に置き、鈴と舞扇をもって舞う。



6 ^{はがえす}羽返の舞

塚野目 白山神社

稚児4人で舞う。天岩戸の変の時、岩戸の前で羽根扇を両手に持ち、大神のおでましを一時も早くと、国土四神に、岩戸前に参集なされた神々が祈りを捧げられた事に由来する舞です。

【囃子】羽返拍子

【装束】天冠・白狩衣・青袴
首に曲玉をかける

【採物】扇2本



7 ^{かみいさみ} 神勇の舞

神の喜び舞われる姿を表現し、神の勇みを現わしたものとされている一人舞です。

湯立神事の際とくに舞われるしきたりになっています。

【囃子】大満

【装束】狩衣・切袴・黒毛頭

【面】奉幣面

【採物】劍・鈴

大崎 中山神社



8 ^{いなだみや} 稲田宮の舞

天照大神の弟、須佐之男命^{すさのおおのみこと}は乱暴者で、高天原から追放され出雲の国の簸の川上の鳥上の地にお降りになった。川上で足名椎、手名椎老夫婦が八人目の娘の櫛名田比売までも八俣大蛇に食べられるので、退治して欲しいと頼まれた。退治した後は、妻としてもらわれる舞です。

又、大蛇の尾から出た太刀^{あまのむらくもの}(天叢雲^{つるぎ}劍)を天照大神に献上し、三種の神器の一つである草薙劍といわれています。

【囃子】大満、大蛇拍子

【装束】翁一風折烏帽子・狩衣・切袴
媼一白髪・差貫袴・打掛 娘一天冠・稚児衣装 命一古代帽・法衣・差貫袴・白脚絆
大蛇一大毛頭・龍頭・金襴・大狩衣・金襴大口 彦一彦装束

【面】翁一足名椎面 媼一手名椎面 娘一なし 命一須佐之男面 大蛇一大蛇面 彦一彦面

【採物】翁一扇又は笏 媼一扇と鈴 娘一中啓又は扇 命一笏と巻物 大蛇一劍 小道具一樽・床机



一ノ木戸 神明宮

9 特別演奏 四日町小学校ふれ太鼓部

<ふれ太鼓部について>

私たち四日町小学校ふれだいこ部は、4・5・6年生の希望した子どもたちが集まって「三条凧ばやし」を中心に練習、演奏活動を行っているクラブです。毎年、8月の三条夏祭り、11月の学習発表会で演奏しています。

今年も、三条夏祭りの始まりを告げるために、市内数カ所で「三条凧ばやし」の演奏を行いました。猛暑の中での演奏でしたか、最後まで気合いを込めて演奏することができました。市内の多くの皆様からの温かいご声援をいただき、励みとなりました。

少人数ではありますが、今日も一人一人が精一杯大きな声を出したり演奏したりします。どうぞよろしくお願いします。



<演目の「三条凧ばやし」について>

今日は、三条夏祭りでおなじみの「三条凧ばやし」を演奏します。調子を取る樽太鼓や鐘、力強く鳴る太鼓、お祭りの雰囲気をもつ横笛、三条の人々の心意気を表現する歌とが重なって一つの演奏となります。六角巻凧が力強く空を飛びまわる雄姿を表現します。

ぜひ情景を目に浮かばせながらお聞き下さい。

三 条 神 楽 の 由 来

三条神楽は、出雲神楽系統に属する神楽です。出雲神楽は、岩戸開き神話を中心とし、その他古くから出雲大社に伝わる神事や、神社の縁起を新たに取り入れ演じられた神楽です。その出雲流の神楽が、山陰から北陸を経て三条の地に伝えられたものと考えられます。

江戸時代の文化8年（1811）には、三条（八幡宮）で神楽が舞われていたことが、古記録に残っていることから、その起源はさらに遡るものとみられます。

ふつう5舞か7舞を伝えるものが多いなかで、三条神楽は32舞も保存されていて、たいへん珍しいため、昭和38年3月、県の無形民俗文化財に指定されました。

このようにすぐれた郷土芸能を、広く市民のみなさんから知っていただき、後世に伝えるため、三条市および三条神楽保存会では、後継者の育成に努めています。研修会や講習会などをおして研鑽を重ねる一方、ビデオや映画に収録したり、本にまとめたりして、当市の伝統芸能の保存をすすめています。

新潟県指定
無形民俗文化財

三条神楽32舞の演目

1 先稚児の舞	9 鳥形の舞	17 天川の舞	25 杵樹の舞
2 宮清の舞	10 羽返の舞	18 奉幣の舞	26 宝剣作の舞
3 悪魔祓の舞	11 岩戸開の舞	19 小弓遊の舞	27 深山錦の舞
4 鎮護鉾の舞	12 地久楽の舞	20 四神の舞	28 神勇の舞
5 久奈戸の舞	13 稲田宮の舞	21 五行の舞	29 五ツ刀の舞
6 五穀撒の舞	14 榊の舞	22 大鉾の舞	30 三座返の舞
7 五穀捧の舞	15 花献の舞	23 天孫降臨の舞	31 宮司舞
8 太平楽の舞	16 福神遊の舞	24 末広の舞	32 乙女舞